

# 平成 30 年度事業報告書

特定非営利活動法人 自遊の広場

## 1 事業の成果

小規模多機能居宅介護すずかけの家の運営では、年間を通じて定員 20 名がほぼ埋まり、小規模多機能の介護サービスが地域に認知されてきた結果であろう。

その他の活動としては、各種イベントや認知症カフェ等を通じて、利用者の過ごし方を充実させるとともに、地域との交流を進めることができた。

## 2 事業内容

### (1) 特定非営利活動に係る事業

#### ア) 小規模多機能型居宅介護の運営に係る事業

○内容: 30 年度事業計画では、さらに小規模多機能の良さを生かすという目標を立てた。具体的には、「通い」「泊り」「訪問」と同時に、事業所や地域の持つ機能をマネジメントすることによって「介護」していくことである。

「通い」では、レギュラーメンバーがよい雰囲気を作り出し、会話、笑い、手仕事など、「集い」の場になってきた。

すずかけの家を利用することで、地域とのつながりを絶ってはならない。しかし、「訪問」の部分を地域の人と分かち合うまでにはいたっていない。最近始まった「見守りネット」を地域の人たちと進めたい。昨年度に引き続き、「ゆずカフェふじの」や「RUN 伴」の実施に積極的に参加した。いずれも、すずかけの家が運営の中核を担っているのは、地域を創るという意味で重要である。

家族が「介護の手」とならないケースが多くあった。人間関係の調整を含めたファミリーケースワークが必要と思われるが、思うようにいっていない。

職員研修としては、前年度に引き続き、ケース検討の内部研修を月 2 回程度実施した。加えて、職員が講師になる内部研修を月 1 回のペースで実施した。各職員の関心でテーマが設定され、職員相互の学びの場となっている。職員の勤続年数が長く、チームワークのよさは評価できる。

今年度は、昨年度に比べて介護報酬収入が多かったにもかかわらず、赤字となった。平均介護度が低い、訪問が増えて人件費がかさんだこと等が理由である。よいケアを提供するためには人件費がかかり、ジレンマである。いかに収支バランスをとるかが今後の課題である。

○日時: 通年

○場所: すずかけの家及び訪問家庭、外出先

○従事者: のべ 4,220 人

○受益対象者: のべ 5,863 人

○支出額: 42,763,821 円

#### イ) おたのしみ講座じじばば自由大学に係る事業

○内容・日時 夏祭り(8月20日)、じじばば自由大学9月講座「すずかけの家が目指すもの—宅老所と小規模多機能—」(9月9日)、のびるっこ保育園交流会(9月10日)、元気を祝う会(敬老会)(9月26日)、うどんづくり(1月19日)、津久井在来大豆の味噌作り(3月6日)

○場所: すずかけの家

○従事者: 71 人

○受益対象者: 112 人

○支出額: 0 円(今年度は、上記アより経費を負担したため)

ウ)その他、この法人の目的を達成するために必要な事業—イベント事業

○内容(日時/場所)

地域との交流を図り、団体の活動を広めるため、次の主催事業を開催した。

・落語会(6月17日/すずかけの家)

地域との交流を図り、団体の活動を広めるため、次の地域イベントに参加した。

・RUN 伴+さがみはら(6月2日)

・ぐるっとお散歩篠原展(10月8日/緑区牧野・篠原地区)

・牧野公民館まつり(10月14日/牧野公民館)

・里の市(12月1日/篠原の里)

○従事者:57人

○対象者:620人

○支出額:187,364円

(2)その他の事業

なし